

令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

ふくはら しんご
社会教育部長 福原 信吾



仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針

人生100年時代の到来と言われ、人口減少化や急速な技術革新など私たちの生活が大きく変化している中、社会教育部では、市民の皆さまが趣味やスポーツ、ボランティアや地域活動など様々な手段や手法で生涯学習に取り組んでいけるよう、また、未来を担う青少年が健やかに育つことのできるよう職員が一丸となってサポートしています。

今年度は「第四次東大阪市生涯学習推進計画」を策定いたしますが、市民の皆さまが生涯学習を通して学び、地域課題の解決やまちづくりなどに活かせるよう、過去にとらわれることなく、10年先を見据えての計画にしていきます。

令和元年度の振り返り

1 家庭教育支援の充実

令和元年度も、市立小学校新1年生の保護者に、「家庭教育手帳－ワクワク子育て－」を配布し、生活習慣や生活リズムの大切さについて啓発を行いました。また、新たな取り組みでは、市立小中学生を対象に「早寝・早起き・朝ごはん」ポスターコンクールを実施しました。小学生の部・中学生の部各々において選ばれた最優秀作品をもとにポスターを作成、市立小中学校に掲示してもらうことで、児童・生徒達に規則正しい生活習慣を身に付け、健康増進につなげることの重要性を訴える取り組みを行いました。

2 地域教育協議会との連携

地域での総合的な教育力を活性化させるため、学校園・地域教育関係者で構成される地域教育協議会が各中学校区に設置されています。各地域教育協議会では、それぞれの地域の特色を生かした地域教育活動事業や学校教育支援事業、家庭教育支援事業等を自主的に行っています。

令和元年度も各地域で、コミュニティ誌の発行や清掃活動、子どもの安全を守る活動、フェスティバルの開催、職業体験等の体験活動実施に対する協力等、活発な事業が展開されました。

また、平成30年度に引き続き、地域教育協議会の代表者会議を開催し、各協議会間で情報共有や情報交換、交流を行うことができました。